

1. 評価結果概要表

ひよし

【評価実施概要】

事業所番号	3471502934		
法人名	有限会社 ひよし		
事業所名	グループホーム ひよし		
所在地 (電話番号)	福山市日吉台三丁目13番7号		(電話) 084-948-6127
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成19年9月14日	評価確定日	平成19年9月21日

【情報提供票より】(19年8月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 人, 非常勤	14 人, 常勤換算 5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <input checked="" type="radio"/> 単独	新築 / 改築
建物構造	重量鉄骨 造り	
	4 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(8月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	61 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福山青葉台病院・前原病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ひよし」では、事業所の理念を基として利用者及び家族と全職員が話し合っ、各ユニット毎の理念をつくりあげている。全職員は、常日頃から理念についてを話し合い、「みんなちがって みんないい」を支援の指針として利用者の個性を大切に、希望や思いを汲み取り喜怒哀楽を共に共有するような努力で支援を行っている。また、全職員は地域との関りを大切に、推進しながら、地域での生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化も図っている。このため、利用者及び職員の明るい笑顔が印象的なホームであった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、特に改善点は無かったが更なる向上のためにその後の取り組みとしては、特に地域との関わりを目標としている理念の実践に更に努力されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、この意義や目的を全職員によく伝え、全員で納得した上で取り組んでおり、サービスの質の確保にも活かしていこうとする姿勢がみられた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、事業所からの報告とともに参加者から質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	常日頃から家族と何でも話し合える機会や雰囲気づくりに積極的に取り組んでおり、意見や苦情等についても発生の要因を探りながら、課題を検討し、質の向上に繋げている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のお祭りや清掃活動には、利用者とともに率先して参加をし、また地域の公民館で職員が認知症高齢者に対する理解を深めるための研修の講師を務めるなど、地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を基に、ホームの各ユニット毎に利用者及び家族と職員の三者がよく話し合っ、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」暮らしていける理念を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員の指針となっており全職員が共有し、意識しながら話し合い、支援に活かすような取り組みが図られている。		更なる向上として、各ユニット毎の理念を掘り下げながら、そして職員全体で話し合い、より具体的なケアについて意見の統一を図られることが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りなどの行事に利用者とともに参加をしたり、また地区の中学生が来てくれるなどして、地域との交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者及び全職員は、評価の意義とねらいを十分理解し、よく話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。また、運営推進会議でも参加メンバーにもこの意義をよく説明している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告とともに、参加メンバーからいかに多くの率直な意見をひきだし、改善にむけた具体的な取り組みにつなげるような双方向的な会議となるようなことに心掛けている。		運営推進会議では、自己評価の内容の説明や外部評価の結果を公表し、年1回の評価の効果を高めるために参加メンバーに取り組みや改善のモニター役になっていただくことの検討を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口に対しては、事業所の活動の実情やケアサービスの取り組みなどを折りに触れ報告している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には声をかけるなど、利用者の状況や家族について話し合っており、また心身の状況についても、何らかの変化や問題が起きた時だけに限らず、きめ細かく報告がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から利用者家族からは、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意し、これらにより出された意見、要望等は後日のミーティングの際に話し合い、反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの利用者及び職員は、日々のレクリエーション等を通じて顔見知りとなっており、やむを得ない場合でも利用者へのダメージを最小限に止めるよう検討が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことは常に推進し、全職員に対しては研修・会議等参加の機会を設け、また全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を設けている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームでの見学や相互研修会で得たものは、事例研修等を通じて事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族が事業所を見学してもらうことから始め、時には体験入所などで本人の安心と納得を大切に利用の支援を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の尊厳を大切にしながら、出来るだけ思いや希望に沿った共に支えあえる関係づくりに留意している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、言葉や言葉にしづらい思いを、行動や表情から汲み取りながら把握することになっている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族には、日頃の関わりの中なかで、思いや意見を聞きながら、反映させるようにしている。また、アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員は互いに情報を確認し、本人や家族の要望を取り入れ、期間が終了する以前に見直し、状況が変化した際には、終了する以前であっても検討の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等で必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医や、協力医療機関での受診の支援体制は、受診結果に応じて情報の共有もできるようにされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのかはよく見極めながら、事業所が対応しうる最大の支援方法についての方針をチームで話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に基づき、ミーティングなどをする折には、職員の意識向上を図るとともに、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが本来持っているペースや、望んでいるペースに合わせた暮らし易い支援に積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業を通じて利用者の力の発揮と、美味しいものを楽しく食べる支援を行いながら食事を1日の大切な時間とし、活動のひとつにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	羞恥心・恐怖心・負担感への配慮を行いながら、本人の意向にそった入浴の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の役割、楽しみごと、気持ちや力を活かす場面づくりを利用者と相談しながら行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、本人の気分と希望に応じて、季節を感じてもらうための日常的な散歩などを行い、利用者本位の外出支援に取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	チャイムやセンサーに頼らず、職員が利用者一人ひとりの外出の傾向などをつかみながら、見守り、声かけの連携プレーの体制で自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所だけの訓練ではなく、地域の方々の参加、協力が得られるように声かけなどの取り組みなどを推進中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握した上で、献立に取り入れながら、栄養バランスにも配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のフロアの飾りつけや家具の配置は、利用者が自分の住んでいる家だという意識を高めるような工夫がされており、また五感や季節感にも配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品が部屋に持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ひよし

評価年月日 19 年 8 月 25 日

記入年月日 19 年 8 月 25 日

記入者 職 主任 氏名 持田 えり子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	----------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念（人間としての尊厳、家庭的で暖かな雰囲気、能力に応じた自立支援） 特に地域密着型としての理念は作っていない。		ユニット独自のサブ理念を構築し実践している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム内に掲示、またミーティング等で話題にして取り組んでいる。		生きがいにつながる、その人らしさへの支援をしていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホームの玄関や中に掲示、重要事項説明書にも記載、入居者、家族にも理解を求めている。		地域の人々への理解は出来ていないので、運営推進会議等で取り組んで生きたい

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩、溝掃除等で挨拶や会話を実践している。 また、玄関前には花を植えたりベンチを置きくつろげるようにしている。		日常的な付き合いが出来るように今後も実践していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	敬老会、夏祭り、町内清掃等の行事に参加し、交流を深めるように努めている。		積極的な参加はできていないので回数を増やしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の公民館で介護予防教室で認知症について話をし理解してもらう。		認知症介護アドバイザーとして地域貢献していくつもりである。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行うことで、ケアへの取り組みや内容を見直す機会になるため、全職員で行っている。		職員のレベルアップが図れ評価を生かし、改善できている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者やサービスの実際、評価への取り組みについて報告している。		運営推進会議での意見を取り入れていきたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者に相談している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修への参加はあるが、該当者がいないため、学ぶ機会は持たれていない。		勉強会やミーティング等で学ぶ機会を持ちたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修へ参加し学んでおり、毎月の会議で話題にあげている。		研修等の資料やミーティングの中で話題にしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行っている。		契約時だけでなく、入居後も話す機会を設けている。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	十分なコミュニケーションを取ることで、職員は汲み取ることができ、ミーティングで話題にしている。		外部に表す機会はないので検討していきたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の訪問時に報告、金銭管理は出納帳を見てもらっている。		定期的な報告までは出来ていないので、請求書、運営推進会議の発送などを利用して近況報告をしていきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の訪問時に気軽に声をかけるなどして交流を図りながら意見・不満・苦情を気軽に出せるように勤めている。		家族等の意見は月1回のミーティング時に話し合いをし改善に努めている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常の会話やミーティングで意見を聞いている。		すぐに取り組める意見や提案は実行している。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	定期的なミーティングの中で入居者の状態に合わせた人数、時間帯の確保ができるよう話し合っている。		入居者の状態に合わせたローテーションを組んでいる

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の退職、人員不足による影響は大きくチームワーク組織作りが大切で全員一丸となって取り組んでいる。		職員の離職に繋がらないよう希望休を取り入れた勤務シフトを作成している。
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人材育成の計画は立てていないが、外部の研修には積極的に受講している。		外部研修を受けた時に資料や報告書を作成し他の職員は内容を確認するようにしている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他の事業所とスタッフ交流会や勉強会をもっている。		多くの職員が参加できるようにしていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	実施されていない。 交流会より大学生の卒論（ストレスについて）にアンケート対応した。		ストレス軽減の工夫を考えていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	外部への研修参加は積極的におこなわれている。		職員一人一人が向上心を持てるような職場にしていきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居の問い合わせや見学時に本人や家族に面談し十分な話し合いを行っている。		本人や家族から十分な聞き取りをしプランに活かしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居の問い合わせや見学時に十分な説明と話し合いを持ち信頼を得るようにしている。		入居の問い合わせや見学時にリーフレットだけでなく、色々な情報を提供し利用に向けている。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	優先順位を見極め的確に対応している。		利用できるサービスの説明をしている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	場合によっては「体験入所」してもらい馴染んでから入所してもらっている。		体験入所や面談などを行っている。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の役割付けや、自信を持てる場面作りを行っている。		職員は日々の介護の中で入居者の変化に一番気付き立場と認識している。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族には、本人が支援されている立場だけでなく、必要とされ共に支えあって生活している関係を大切にしている話をする。		入居者・家族・職員が共感できる豊かな人間関係を築けるよう努力していく。
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	特に本人が出来ていること、又出来るようになったこと等を報告し喜んでもらっている。		入居者と共感できるような情報を提供していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき た項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>面会や電話連絡、時々ドライブをして支援している。</p>		<p>馴染みの知人、親戚等へ近況の手紙や絵手紙など送り関係が途切れないように支援していきたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>相乗効果が図れる利用者同士の場面作りと孤立しそうな利用者には職員が媒体となり関わりあえるようにしている。</p>		<p>十分な配慮でトラブルの回避に努め、支えていきたい。</p>
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>退所された方の自宅に仲良しの入所者を連れて遊びに行っている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日常の会話などから希望を聞きケアプランに取り入れている。</p>		<p>コミュニケーションを図り一人一人の「こだわり」の把握に努める。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居者や家族から聞いた生活環境、生活歴を参考にしている。</p>		<p>本人・家族から話を聞き把握している。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>引継ぎ申し送り、介護記録等を参考に心身状態を把握し心配り見守りに努めている。</p>		<p>日々の生活やアセスメントの中から入居者の出来る事、能力を把握している。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	アセスメント、モニタリングに基づきユニット会議（担当者会議）を開き介護計画を作成している。		定期的な見直し、状態に変化があれば、その都度つかかしてプランの変更をしている。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1回の介護計画の見直しを基本とし心身の状態の変化に応じて随時見直しを行っている。		心身の状態の変化に応じて本人・家族・医師と話し合い見直している。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録への記入やケアプランチェック表で日々の記録に取り組み、情報を共有しながら見直しに活用している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームの為、介護保険による多機能性はない。		介護保険外で利用可能な情報を提供して支援していきたい。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎月の絵手紙教室、歌のボランティア、踊り隊、夏休みには地元中学生（チャレンジウィーク）等の受け入れてる。		新たにギターと歌のボランティアをお願いしてるので定期的に来てもらえるようにしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	自宅への退所時には、在宅の担当ケアマネと担当者会議を行っている。		本人、家族の意向や必要性に応じて、今までどおり柔軟に支援していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センターと協働して実施したことはない、が今後は本人の意向を踏まえ包括センターと協働して権利擁護等に取り組みたい。		必要があれば協働して支援していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の継続、隔週ごとの往診病院等、本人家族の希望を取り入れ支援している。		現状の選択肢で支援していきたい。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医との関係は築かれていないが、診断や治療を受けられる支援はできている。		認知症専門医の確保に取り組みたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	2週間に1回の往診時に相談している。		往診時に看護師とよい関係を築き気軽に相談できるようにしていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には定期的にお見舞いに行き入居者、家族の意向を聞きながら担当のドクター看護師を連携を密にしている。		今までどおり行っていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>家族を交えた話し合い、ミーティングで早い段階に会議をもち全員で方針の共有につとめている。</p>		<p>本人家族の意向を踏まえドクターの診断、介護力を検討し最善の支援をする。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>家族と話し合いを続け家族の意向本人の気持ちに沿えるよう支援している。</p>		<p>ターミナルケアについて学ぶ機会をもちたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>本人家族と話し合いをしながら担当者会議を開き情報の交換に努めている。</p>		<p>十分な情報交換を行って生きたい。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>理念のに基づき、個人を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう心がけ支援している。</p>		<p>十分注意している。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ゆっくり、ゆったり傾聴し対応している。</p>		<p>入居者に合わせてゆっくりと傾聴し対応している。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペース体調を見ながら個々の希望に沿えるよう支援している。</p>		<p>ミーティング等でも入居者主体を常々話し合い意識して支援している。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理・美容師に訪問して頂いたり、馴染みの理・美容院に行っている。		理・美容院の訪問、なじみの理・美容院への継続を支援していく。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の能力に応じ、買い物・献立・調理・片付けをしている。		能力に応じて参加している。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	酒タバコは禁止しているが。飲み物おやつは日常の会話から好みを把握して提供している。		好みを把握している。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し入居者の状態に合わせて自立に向けての支援をしている。		排泄のパターンは把握できている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間の希望はある程度取り入れているが、人数や介護度によって、安全面を重視した決定もある。		入居者の希望通りにしたいが、安全面重視を優先していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	午前中は散歩や遊びリテーションをユニット合同で行い生活にリズムを作ることで安眠につながる、なるべく日中は離床するようにしている。		個々の安心できる生活リズムを定着させたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	昔やっていたことや、それに近いことが出来る場面作りをし役割付けをしている。		個々の趣味や生きがいを活かし、その人らしく穏やかに暮らせるよう支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出時(買い物、受診)等には入居者に財布を預け、金銭の出入りをしてもらい、職員は、お小遣い帳で支援している。		外出回数を増やしたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	玄関前での、お茶やレクリエーション、散歩は日常的に行っている。		外出の機会を増やしたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	入居者の能力に応じて外出しているが、十分とはいえない。		家族の協力もいるので、負担にならない程度、話題にだしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要求があるとき支援している。		電話はその都度本人の申し出に応じている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、友人等の面会訪問時の接待には心がけて居心地良く過ごせるよう雰囲気作りをしている。		今までどおり行っていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	暴力、暴言を吐く入居者には、気長に対応するなどし、身体拘束をしないケアをしている。ベッドやベッド柵の工夫をしている。		研修受講により研鑽を積んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	常に見守り、見回り等を行い声かけを実施し、自由に出入りできるようにしている。		鍵を掛けずに見守り、見回りに気をつけている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	死角が多い為、プライバシーに配慮しながら、五感を働かせた見回りをし安全に配慮している。		こまめに見回りを継続する。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	視界に入らないところ、手の届かないところ、時によっては施錠できるボックスに保管し危険を防いでいる。		状況や状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット報告が一人一人の事故防止にあたっての話し合いをしている。		不十分なので、研修、勉強会を通じてレベルアップを図りたい。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	医師、看護師等の医療従事者がいないため十分ではない。		定期的に初期対応、応急手当の研修・訓練を実施したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、日中の避難訓練を行っている。		地域の方々に参加してもらい、避難訓練を行いたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入所時また状態の変化に応じて説明している。		一人一人の状態の変化に合わせた対応を話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	介護記録等のチェック、顔色、表情、訴えでの気付きと引継ぎ申し送りで情報を共有している。		介護記録、連絡帳、申し送りで情報の共有をはかり早期発見に努めている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の薬表を個人別のファイルに綴じて、いつでも見られるようにしている。		副作用までは把握できていない。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	ドクター指示のもとに排便のコントロール、また食事にも気をつけている。		薬、食事、水分、運動が大切なので心がけて支援していきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝・夕のみで昼食後は行えていない。		毎食後、自主的にする入居者はいるが全員に声かけしておこないたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の好みや量は把握できているので、十分支援できている。		水分摂取量の少ない方には、何時でも飲めるように工夫している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症について研修を受けており、予防接種・手洗い・うがいを励行している。		手洗い・うがいの励行
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具は消毒・乾燥、食材はこまめに買い物に行き、新鮮で安全な食材を購入している。		賞味期限等にも十分注意したい。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りでの園芸・鉢植えに水やり、ベンチでの語らいやレクリエーション等でくつろげる雰囲気を作っている。		近隣の方々が気軽に来てくださるよう声かけていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中はカーテン、採光の少ない廊下は照明。 夜間は個室のテレビの音量への配慮をしている。 テーブルの花、壁面に季節感を工夫している。		共用の場所で入居者が心地よく過ごす工夫を常に考えている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下のイスは気の合う入居者同士の、おしゃべりの場になっており、リビングでは一人用ソファもあり思い思いに過ごしている。		視力障害の入居者もあり、共有空間でのベンチの配置等、困難なことが多いが工夫をしていきたい。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	仏壇、遺影等入居者の馴染みの品物が居室にあり個性の生かされた居心地良く過ごせる空間が出来、家族の協力も得られている。		私物の少ない入居者もいるので居心地良い居室作りを心掛けていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室の換気扇は常時オン、1日2回は窓を開けて外気と入れ替え換気している、リビングは窓の開放に加え空気清浄器を稼働させ空調に配慮している。		いままで通り行っていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	状態の変化に合わせ、手すり、ベッドの柵、お風呂の手すり等工夫している。		状態の変化に合わせ創意工夫していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者の残存能力が発揮できる場面作りを行っている。		得意だったことや、それに近いことをやってもらい、自信につながる場面作りを行いたい。
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダには入居者が楽しんだり世話が出来る花、野菜があり室内からも目に出来、安らぎを与えている。		建物周りは緑に囲まれ、季節を問わず外気浴ができたり遊びリテーションの場所となっている。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ひよし

評価年月日 19 年 8 月 25 日

記入年月日 19 年 8 月 25 日

記入者 職 管理者 氏名 菅原 美和子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	分かりやすく簡潔に一人一人に浸透しやすいよう明記して掲示している。		ユニット独自のサブ理念を考え、一人一人が念頭に置き実践に向け取り組んでいる。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	よく見えるところに掲げ、日々念頭に置き対応している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族や地域の方にお話しホーム内に何箇所も掲示して有ります。		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時 etc 日中天気の良い日はホーム周辺を回り、挨拶することや道路の清掃等も行い気軽にお付き合いが出来るよう努力している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	敬老会、夏祭り、一斉清掃に参加して地域の方々と交流を努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	認知症高齢者に対する理解を深める為に地域の公民館にて講師を務めた職員がいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をスタッフ全員に促し評価してもらっている。 運営推進会議でも議題に揚げ理解を深めた。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の議事録はユニットごとに回覧を回し目を通してしている。同時に家族にも発送しサービスの向上につながるよう努力している。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	利用者の方が描かれた絵手紙の作品の展示場所の相談からケアプランに至るまで些細なことまで相談しています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	裁判所の公報と研修の参加で学んでいるが、利用者、家族から申し出はありません。		管理者、スタッフ間で学ぶ機会を持ちたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修参加と理念を通しての会議で話し合っている。		
4 理念を実践するための体制				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者・家族に十分な説明を行い、理解・納得を得た上で契約・解約を図っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	家族には面会時に話しやすい雰囲気を作り、意見を頂いたり、月1回の利用者全員とスタッフの会議で何でも意見を述べられる時間を作る。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に、お小遣い帳、健康状態を話し急変時には電話にて連絡している。 ひよしの広報誌も家族に送り日々の暮らしを知らせている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に話したり、スタッフ間とで話しやすい関係をつくれるよう努力しています。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議・ユニット会議、月1回の定例会など設けており日々意見・提案を反映しております。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態に応じ日勤者3名以外にもフリーのスタッフを配置している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間の職員の異動は行われていない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修には積極的に参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他の事業所との交流会や1日体験実習を通じて勉強している。		他の良いところはドンドン取り入れていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	個人的に話せる時間がある。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	希望する研修・講演会へ参加し、他の職員にも反映させる機会をつくっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	新しい環境に慣れていただく為にも、面接見学時に情報収集した事柄をスタッフ間で共有し、ゆっくり話ができる対応を心がけている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族から色々な情報を収集すると共に、ホームから確認の電話連絡を頻繁に行っている。時には、体験入所とし、話す機会を多くもっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホームで出来ることと家族の要望を把握し見極め、介護プランに反映させている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬように家族等と相談しながら工夫している。	入所前に、本人・家族に来所していただいたり、体験入所なども行って雰囲気を体感していただいている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を営む上で、必要な仕事(炊事、掃除、ゴミだし、洗濯物)を共にし会話を多くする事で信頼関係を築いている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の方と話せる時間を多く持つよう心がけている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	面会時は、家族だけの時間を大切にしている。 お盆、年末年始や週末は家族や本人の要望に応え外出や外泊を勧めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会、電話は自由です。外出は本人の状態等を考えるが原則自由です。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎日のレクリエーション、作業を通し、お互いが支えあえる関係を築けるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ユニット内では事例がありません。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中から、思いや希望を引っ張り出し毎月のユニット会議の中で情報交換し検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報と利用者本人との会話の中からを繋ぎ合わせアセスメントをしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の記録を振り返ることや、その日の表情、歩容は昨日と比べてどうかなど、スタッフ間で情報を密にとっている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者本人、家族の方と話し合い、担当者会議ユニット会議にて課題を見つけ介護計画をたてている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	精神的、身体的に変化が生じた場合や、見直しの際、表出されない場合はスタッフと協議し家族に連絡し早急に計画の見直しを図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、その他個別の記録を共有し介護計画に反映している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームの特性を生かし職員体制が確保されている為、その時々々の要望に応じることが可能である。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議や行事等ボランティアの方々が協力してくださっています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	グループホーム入居者は、他のサービスの利用は行っていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと協働していない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人のかかりつけ医及び協力医を入所時、また状態の変化に応じ適切な医療が受けられるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医、かかりつけ医の診断により症状の安定を図っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	月2回の往診時に日々の状況を詳しく伝え、急変時には相談にのってもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の際には情報交換はもちろん、入所中の状態なども詳しく伝えている。 退院に際しては訪問しADL面など私達のケアにつなげられるよう詳しく聞き取りしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	本人・家族の意向を踏まえ、主治医と相談しミーティングを開き今後の方向性を決めるようにしている。		
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	常に話し合いの場を持ち情報の共有をし、スタッフの日々できることを確認し取り組み体制でいる。医療面では主治医と連携を密にしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	家族を交えた担当者会議はもちろん、本人にとって、馴染みの物の持参を勧めている。		

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

- 1 その人らしい暮らしの支援
(1) 一人ひとりの尊重

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	理念「人間の尊厳」に基づき対応しています。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	時間を掛け傾聴することや、いろいろな手段を用いて自己決定の支援につとめている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ケアが作業的にならないよう、入居者さんのペースを尊重し、心の声(ユニットのサブ理念)を聞くよう努力している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理・美容院の方が来所され、希望に合わせた髪形にしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	料理の下ごしらえ、食器の片付け等できることは何でも一緒にやっている。好物は聞き取っているので食事の中での会話に折込、一緒に楽しいひと時となっています。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ホーム内は禁酒・禁煙です。 飲み物、おやつは好みに合わせて選んでおり、食事制限のない方は居室内での、おやつは自由にされている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>目配り、気配りで一人一人の行動に合わせて排泄を察知し、トイレへの誘導を支援している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>くつろいだ入浴ができるように一人一人の状態に配慮している。入浴嫌いな入居者にも、声かけし1回/3日は入浴している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>昼間の離床を促し、レク参加、昼夜のメリハリができるよう支援している。 入居者の顔色、体調、バイタル等観察し状態により休息していただき、ドライブ散歩で気分転換を図ってもらっている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>毎日の家事、レクリエーション参加、散歩、水遣り、パズル、塗り絵などスタッフも一緒になって支援している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>家族の了解の下、利用者の希望により財布を所持し自分で管理しています。ホームでの管理してる方が多いが、一緒に買い物に行く等の支援をしています。</p>		
61	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>気候の良い日は外の空気を吸い、長距離歩行のできない利用者さんも車椅子に乗ってホーム周辺を散歩しています。 ドライブ買い物などの個別支援をしています。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。</p>	<p>毎月の外出行事の中に利用者さんの意見を取り入れられています。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望により家族に電話したり、絵手紙で作ったハガキを利用して便りをだしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会自由です。リビング・居室・庭園など何処でも自由に過ごしていただけます。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修参加、職員への資料回覧・会議等スタッフ間で理解を深めています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ユニットはチャイムを使用して施錠はありません。階上のため外出の察知は見守りで対応しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜を通して、いつ誰がどこにいるか五感を働かせ把握するよう努力している。 巡回の徹底にて安全確保ができています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	現在、危険を感じる所持品はありません。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ユニット会議で意見交換をし、個別に資料を集め回覧している。 スタッフが常に見守り確認するよう努力し、ヒヤリ・ハットの意識付けにて予防に努めている。		
70	急変や事故発生への備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	避難訓練の実施、緊急時対応マニュアルの掲示をし会議で話し合っているが、初期対応の訓練は定期的に行っていない。		勉強会・初期対応の訓練を行って行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	近隣地域の方々から協力的な言葉を頂いているが、万全とは言えない。		近隣地域の方々の協力が得られるよう努める。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	精神・身体の状態変化が起きるたびに家族に説明し対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェック・食事量・排泄など状態変化や一人一人の発言・行動の異常の早期発見に注意し介護記録に詳細に記載し情報の共有に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬確認表を常時備え確認している。 受診の都度、薬の処方が変わった時でも医師からの今後の治療方針も記録に残し情報を共有している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェック表の活用。 野菜を多く使用した調理や消化吸収の良い食物の摂取。適度な運動を日常生活の中で取り入れている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、声かけ誘導にてスタッフが付き添い、見守り確認をしている。 洗口液にて、うがいも促している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	多種の食材を使用し、一人一人の好物と食べれる量を把握している。 バランスのよい食事、調理方法も工夫し食事摂取量、水分量チェックもしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり 実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種、うがい、手洗いの徹底 多種の消毒使用、空気清浄器や加湿器の使用で予防に取り組んでいる。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器乾燥機の使用。洗剤・漂白剤の使用にて用具の衛生管理につとめている。 食材に関しては、賞味期限の確認や生ものにも火を通し常に安全なものを提供している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物周囲には樹木が多く春夏秋冬、季節を楽しむことができる。 玄関周りに花を植えたりベンチを置いて、お茶したり安らぎを感じる雰囲気作りに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花や観葉植物や置物などを置き、生活感を出している。利用者の方が製作した、ちぎり絵、絵手紙、書なども飾り、過ごしやすい空間作りをおこなっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのソファで利用者同士が会話したり、楽しくくつろげる場所となっている。冬季には掘り炬燵にもなる和室、畳敷きのベンチもあり一人一人自由に居場所を選べる。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた、タンス、テーブル、イス、遺影、絵、写真、布団など持ち込まれています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め 温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室には換気扇が設置されているが、外気の入れ替え窓の開閉を心がけている。一人一人の体調、状態に応じ冷暖房の調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	滑り止め、手すり、踏み台の設置 洗濯物も干しやすくするため、天井から物干し竿をぶら下げる工夫をしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入口には表札だけでなく、暖簾を下げたり目印をつけたり工夫し混乱を防いでいる。 老眼鏡を数多く揃え、自立につながる支援を心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダではプランター鉢で野菜や花を育て、今年 は稲も植えました。 物干し場にはイス、ベンチを置き、外気浴を楽しん でいます。		